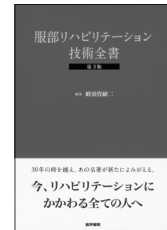


蜂須賀研二（編）

服部リハビリテーション技術全書 第3版

中村 春基

（兵庫県立リハビリテーション中央病院，作業療法士）



帯にある「30年の時を越え、あの名著が新たによみがえる」、「今、リハビリテーションにかかわる全ての人へ」の言葉は、編集に携わられました皆さまの素直なお気持ちを代表していると思う。

私は、1977年（昭和52年）にOTになり、現在まで主に兵庫県立リハビリテーションセンターで働いているが、病院では図書室で、また自宅には手垢がついた状態で初版を活用している。それを見ると初版第1刷は1974年（昭和49年）2月15日発行で、価格は22,000円。入職後しばらくしてから購入したのを覚えている。学生時代には、ほしくても買えない貴重な書籍であった。

あらためて初版の第1章を見ると「医学的リハビリテーションの順序」から始まり、その章の最後は転帰設定で復職に関して、手書きの検査結果、総括意見書等が掲載されている。当時のニーズが復職にあったことが読み取れる。そのようにして初版と読み比べる

と、帯の「30年の時を越え」というフレーズが納得できる。

さて、本書では初版の600以上に及ぶ手技や訓練・福祉用具のイラストはそのままに活用され、さらに今日の実地診療に対応できるように最新の知見が盛り込まれている。

第1部から第10部で構成され、リハビリテーション総論・技術総論、理学療法、作業療法に関して総論と実際、言語聴覚療法の実際、福祉用具、地域リハビリテーション、疾患別リハビリテーションから成る。この中で、言語聴覚療法の実際と福祉用具（旧版では自助具、車いす等は個別に掲載）、地域リハビリテーションは、新たに加えられた部である。

本書の良さを一言で述べると、帯の裏に記されているように、「リハビリテーション技術についての最もスタンダードなテキストとして、初学者から熟練者にまで役立つ、先達の智慧と情熱が詰まった百科全書」となる。まさにおれな

い30年の重みを読み取ることができる。

また、冒頭の第3版序から初版謝辞をぜひお目通しいただきたい。服部一郎先生らが10余年をつぎ込んで集大成された958項に及ぶ初版への思いとそれを支援された数々の先輩諸氏、そして改版に挑戦された蜂須賀先生をはじめ62名の諸先生方の労にあらためて敬意を表したい。

社会保障制度や診療報酬制度が激変する中で、リハビリテーション医学とは、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の役割、機能を示す良書である。

最後に『服部リハビリテーション技術全書』は、30年間の実績と思いが詰まった書籍であり、「今、リハビリテーションにかかわる全ての人に」活用していただければ幸いである。

〔 B5判 1,024頁 18,000円＋税 〕
医学書院 刊
☎ 03-3817-5657